

(3) 地域交流事業

財団では、先端科学技術に対する地域住民の関心を高めるとともに、高山地区の立地施設と地域住民との相互理解を深めるために様々な地域交流事業を行っています。

高山サイエンスタウンフェスティバル

関西文化学術研究都市高山地区立地施設等連絡協議会(奈良先端科学技術大学院大学、参天製薬(株)奈良研究開発センター、上六印刷(株)、(株)Burley plus、(株)芦田製作所、当財団)の主催で、地域交流の一環として毎年開催しています。

令和4年度も、新型コロナとインフルエンザの同時流行のため、11月19日(土)に、内容、規模を見直し開催しましたが、サイエンスプラザの紅葉の中、音楽・ものづくり、科学体験など約300名の来場者楽しんでいただけた一日となりました。

(令和4年度の会場の様子)



- ・定期音楽会「クラリネットの音域を楽しむ」
クラリネット三重奏 45名、
- ・ものづくり
折紙ヒコーキづくり 94名
- ・科学体験「サイエンスランド」
ソーラーカー、電磁石等 28名
- ・科学に関する絵画展 103名



科学に関する絵画展

科学技術が日々進歩していく中、子供たちが想像した未来の生活や未来のロボットなどを描くことで子供たちの夢を育み、科学に関心を高めてもらうことを目的とした絵画展を開催しています。

令和4年度の応募総数は315点で財団理事長賞8点、優秀賞13点、入選25点を表彰するとともに、優秀作品を11月1日から12月23日までの間、高山サイエンスプラザに展示しました。

(令和4年度の展示風景)



NAISTサイエンス塾

平成18年11月から、概ね毎月第2土曜日に、子供の理科離れの防止を目的に、講師をNAISTにお願いして科学実験教室を開催しています。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の対策を行い開催しました。

【令和4年度開催状況】

開催回数/8回 参加者/小学生287名

内 容/

「私たちの体の設定図」、「パンを作る生き物」、「マイコンとセンサーの世界」、「いろんなスライムを作ろう」
「光と海の波の共通点」、など



夏休み科学実験教室

毎年夏休み期間中、科学のおもしろさ、楽しさを伝え、科学をより身近に感じてもらえるよう、科学実験教室を開催しています。

開催日／令和4年8月6日(土)

開催場所／高山サイエンスプラザ

参加者／小学生31名

内容／「カメラや距離計をつかって光の不思議を感じよう」

講師／奈良女子大学 理学部 小林 毅 教授



定期音楽会

従来より開催してきた「プチコンサート」を発展・拡大し、「毎月1回の文化交流」をスローガンに色々な音色を楽しむ音楽会を毎月第3月曜日にオーブンギャラリーにて開催しました。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の防止対策を行い、4月から11月まで計8回実施しました。

特に広報においては、サイエンスプラザ及びサイエンスタウンの情報発信も行いました。

内容／チェリーブロッサムの香りを楽しむ(4月)

水の館で異なる音色を楽しむ(5月)

夏から秋へ、季節の移ろいに浸る(8月)

紅葉の中クラリネットの音域を楽しむ(11月)

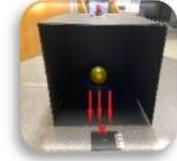
参加者／377名



サイエンスランドの運営

大学院との連携により、「科学に芽生える」をコンセプトとした幼児の遊び空間「サイエンスランド」に、ドラえもんを始め種々のソーラーカー、電磁石ゴマ、偏光ボックスといったコンテンツを揃えました。

利用者数 160名



サイエンプラザの団体受入れ

「サイエンスランド」や屋外のオブジェを活用し、幼稚園児の団体体験を令和4年3月より積極的に受入れました。

この体験を契機として、リピーターの確保、さらにはサイエンス塾への初参加といった効果があり、今後も受入れを進めていきます。

6幼稚園(305名)、1小学校(23名)、1中学校(20名)また、シニア層の来場に対しては、高山地区の解説を行いました。

今後は、高山地区立地施設等連絡協議会との連携により奈良先端大の概要や周辺企業のものづくりなどのレクチャーを取り入れ、地区住民との相互理解や交流機会を増やすなど、社会貢献事業を展開します。

